

AREA WEB エリアウェブ

HPアドレス <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/areaweb.html>
E-mail katou-vxkb@pref.yamanashi.lg.jp

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2731
FAX 0553-20-2733



子ども達の背中を押す“グローバル人”でありたい

峡東教育事務所 副所長 加賀美 公人

「グローバル」という言葉を初めて聞いたとき、単純に、メディア等でも盛んに言われる「グローバル」に対抗して「グローバル」ぐらいに思っていました。つまり、“グローバル、グローバル”と、広い世界へ目を向けることも大事だが、“ローカル”である地元に、足下にこそしっかりと目を向けるべきではないかという、「グローバル」への対抗心から発せられる造語ぐらいに思っていました。(恥ずかしながら…)

この「グローバル」をネットで調べてみると、英語の「グローカリゼーション(globalization)」が語源で、「グローバルイゼーション(globalization)」(地球規模の、世界的な)と「ローカリゼーション(localization)」(地域規模の、地域的な)の二つの言葉を組み合わせた混成語とありました。「地球規模の視点で物事を考えつつ、自分の地域に密着した活動をする。」といった考え方を指しているそうです。例えば、世界的に展開する企業の中には、世界共通の商品やサービスだけでなく、その国に合わせた商品やサービスを提供している企業があります。某有名なハンバーガーショップの「て〇〇きチキンバーガー」がそれにあたります。

2020年度本格実施の新学習指導要領では、小学校5・6年生に教科としての外国語の指導が盛り込まれ、多くの学校で、移行期である今年度から指導が始まっています。外国語、特に英語は世界共通語であることから、英語によるコミュニケーション能力を身につけておくことにより、世界中どこに行ってもコミュニケーションが図られ、相手の考えを理解したり、自分の考えを相手に伝えたりすることができます。

しかし、それだけでは「グローバル」にも「グローバル」にもなれないと感じました。自分の足下、自分が暮らす地域の自然や文化、歴史や産業などを、五感を使い、肌で感じ取りながら理解を深めていく学びや体験こそが、もっと広い地域や国を理解するための五感となって働くのだと思います。だから、「グローバルイゼーション」に向かうためには「ローカリゼーション」が大事であり、ゆえに、混成した「グローカリゼーション」が大事になるのだと思います。(私なりの解釈ですが…)

子ども達の目線を、地球規模で考える目線にすることはとても大事なことだと思います。その地球規模の目線や思考を持ちながら、自分の足下、自分の地域を見つめ、そこから学び、そこで活動することが、グローバル社会を生き抜いて行かなければならない子ども達にとってとても必要なことだと思います。

私が好きな言葉に「眺望が人を育てる」という言葉があります。2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大村 智先生が大事にされている言葉でもあります。自分が生まれた地域の自然や文化に触れ、人に触れ、様々な体験を通して自己実現を図りながら、多くの知識や知恵、多様な感覚などをつかみ取っていく。そのような育ちが土台となり、やがて広い世界に出ていっても、自己を見失わず、他者を受け入れながら、その土地の文化や風土に溶け込み、また新たに自己実現を図っていくことができるのだと思います。

本誌に登場してくる活動や子ども達は、まさに足下の地域で繰り広げられている活動であり、躍動している子ども達の姿です。ちょっと大げさかも知れませんが、子ども達が、地球規模の目線や思考を持ちながら、地域で行われている諸活動に価値を見だし、そこに参加し、身につけた力を携えて、やがて広い世界に足を踏み入れていく、そんな子ども達の背中をしっかりと押してあげることができる“ローカル人”，いや，“グローバル人”でありたいと願う今日この頃です。

QRコードをご利用ください

◎『エリアウェブ』はカラー版を峡東教育事務所のホームページで掲載中です。是非ご覧ください。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、ホームページを開いて下さい。

ご意見ご感想をお寄せください

◎『エリアウェブ』のご意見・ご感想・取材情報をスタッフ一同お待ちしております。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールでご連絡いただくか、表紙右上の連絡先にご連絡下さい。



エリアウェブ
ホームページ



お問い合わせ先

おっぱじめてもようごいすけえ

石和南小学童保育クラブ

8月3日(金)、石和南小学童保育クラブでは体験教室「甲州弁で話せる昔話」が開催されました。講師には山梨むかしがたりの会代表の藤巻愛子氏をお招きし、山梨の昔話の朗読や紙芝居、手遊びなどを体験しました。この日、当学童クラブには約50名の小学生が参加し、藤巻さんの優しい口調で語られる甲州弁に聞き入っていました。語りの始まりに藤巻さんが「おっぱじめてもようごいすけえ」と声をかけると、子ども達は声を揃えて「ようごいす」と答えました。昔話は大月の桃太郎伝説のお話や笛吹市芦川のためきえもんなどが語られ、甲府空襲を題材にした紙芝居「かみず」も披露されました。昼食直後でもあり、疲れている様子の子もいましたが、多くの子が最後まで真剣に目を向け、耳を傾けて、山梨の昔にタイムスリップしました。



3歳までは・・・

すてっぴあっぷる

8月20日(月)、甲州市勝沼市民会館会議室で助産師さんとのおしゃべりタイム『3歳までのお肌の保湿』が行われ、6組の親子が参加しました。お母さん方の日頃の子育ての様子を聞きながら、講師である助産師の飯嶋さんから数多くの実践的なアドバイスが送られました。肌のバリア機能を高めるために肌の保湿は3歳まで十分に行うこと、ゴミ(ボタン電池、ピーナッツ)がないか赤ちゃんの目線で床を確認すること、うつ伏せ寝のときは顔が沈み込まないように枕は使わないこと、集中力を無くすので3歳までの子どもには同じビデオを何回も見せないこと、スマホの明かりは覚醒作用があることなど、日頃の子育てに直結する内容でした。また、2名の高校生が職場体験として参加し、赤ちゃんとふれあいました。



中学生交通安全・防犯弁論大会

日下部警察署・笛吹警察署

日下部警察署は8月23日(木)に山梨北中学校において、笛吹警察署は8月29日(水)に八代町総合会館において中学生交通安全・防犯弁論大会を開催しました。各中学校の代表者は熱弁をふるい、交通安全や防犯についての自分の想いを訴えました。なお、笛吹地区の飯塚さんは防犯弁論の部の代表として県大会に出場し、優秀賞(第2位)を受賞しました。

★最優秀賞	東山梨地区	笛吹地区
交通安全弁論	松里中学校2年生 中村美幸さん 論題：人生を変える「一瞬」	一宮中学校3年生 白澤侑美夏さん 論題：道路は誰のためにあるのか
防犯弁論	勝沼中学校3年生 小澤美優希さん 論題：出会いを育てよう	御坂中学校3年生 飯塚彩心さん 論題：味方



Marina's (マリナーズ) 親子アンサンブル

福祉のこころ醸成事業

9月13日(木)、笛川小学校では「福祉のこころ醸成事業」の一環として山梨市及び学区の社会福祉協議会の共催で福祉コンサートが開催されました。音楽が大好きな Marina さんは知的障がいや指の動きの困難さを抱えながらも、演奏や歌声を披露しました。キーボード演奏やお母さんとのピアノ連弾は見事で、甘くハスキーな歌声は心に響きました。また、演奏の合間にはお母さんによる福祉トークが挟まれ、児童等に「障がいのあるお友だちも仲間に入れて。大切なのは相手の気持ちを想像すること、どんなことをされたら嫌か、どんなことをしたら喜ぶか、それは健全者も障がい者も同じ。」と障がい者との接し方などが語られました。お母さんからの呼びかけには、収まりきれないほどの児童がステージに上がり、アンサンブルに飛び入り参加する場面も見られました。曲が終わると、皆、Marinaさんとハイタッチを交わし、子ども達が偏見なく、Marinaさんと一緒に音楽を楽しんでいるという印象を受け、温かい気持ちになりました。



第59次南極地域観測隊員登場！

境川小学校

8月30日(木)、池原潤さんが母校境川小で講話を行いました。池原さんは、平成29年11月から平成30年3月まで、第59次南極地域観測隊(夏隊)に参加されました。主な仕事は雪上車の整備士および運転士でしたが、観測や建設などの補助も行ったようです。講話では、現地の仕事や生活、自然などが説明されました。また、太陽が地平線に沿って移動する白夜の様子やピステンブリーという雪上車が除雪する様子、オーロラやブリザードの様子などの動画が紹介され、児童はもちろん、保護者や地域の方々も未知の世界を食い入るように観ていました。講話の休憩時間に、児童ら(4年生~6年生)は南極の石や氷を手にとったり、雪上車のラジコンを動かしたりしました。講話の最後には後輩たちに「何事も自分で考え、実行する勇気をもつことが大切である。それができた時、チャンスが転がってくる。チャンスを掴み取ってください。」と熱いメッセージが送られました。自分たちの先輩が見知らぬ世界で活躍の様子を聞き、児童の代表は「ぼくもいつか南極に行きたい。」と感想とお礼の意見を言いました。



思いやりの心と一歩踏み出す勇気

井尻小学校

9月11日(火)井尻小学校でALSOK あんしん教室が開かれました。5・6年生は「人の命を助けるって何だろう」というテーマで、倒れている人を発見した時の対応を学び、発見時から救急車が到着するまでを想定して、助けを呼んだり、119番通報したり、AEDを使ったり、胸部圧迫法を交代で8分間継続して行ったりして実際に体験しました。ALSOKから派遣された講師の方からは「もしもの時には思いやりの心と勇気をもって対応にあたってほしい」とメッセージが送られました。また3・4年生は「安心してお留守番」というテーマで、留守番をする際の注意点、留守番時の電話対応(電話に出る時は最初に名前をいわないことや電話があったことを家の人につたえることなど)を学び、ロールプレイで体験しました。1・2年生も登下校時における危険回避の心得をロールプレイで体験しました。学年毎に実際に起こりうる危険を想定しながらの教室となり、危機管理意識を高めるのに有意義な教室でした。



戦争体験講話

御坂西小学校

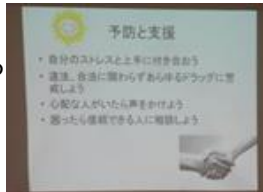
9月27日(木)御坂西小学校では元小学校教師の弦間いずみ先生を講師として、3年生を対象に戦争体験講話を行いました。先生は小学校5年生の時に甲府大空襲を経験されたそうですが、その時の悲惨な状況を淡々と語られていました。また、子ども達が理解できるように空襲の時に落ちてきた焼夷弾や身につけた防空頭巾やもんぺ、草履がどんなものか具体物を示したり、食べていた大豆、さつまいも、かぼちゃも持参したり、防空壕や家の明かりについてご自身が書かれた絵を用いたりして丁寧に説明されていました。講話の中で先生が「戦争なんかないほうがいいよね。爆弾なんかないほうがいいよね。」と優しく子ども達に問いかけ、子ども達も「うん」と素直に答えている対話の様子は、悲惨な戦争の話の中であって周囲の心を和ませ、印象的な場面でした。



ストレスと上手につきあおう！

山梨南中学校

9月27日(木)山梨南中学校では2年生を対象に薬物乱用防止教室が行われました。臨床心理士の深澤孝之先生を講師に招き、覚醒剤やアルコールの作用や影響、依存症について学びました。先生からは「人は苦痛の緩和のために依存する。依存症は衝動がコントロールできなくなる病気であり、気持ちでどうにかなるものではない。そうならないために、ストレスをと上手につきあってほしい。」とアドバイスが送られました。一方、生徒代表のお礼の挨拶では「覚醒剤やアルコールの危険性がわかった。ゲームやインターネットへの依存症もある。依存しないように気をつけていきたい。」と話し、主体的で前向きな姿勢が感じられました。同校では、1年時には防犯教室、3年時にはエイズ教室を実施し、中学校3年間を見通した講演会が計画され、実践されています。



峡東地域中学校 新人体育大会

東山梨地区 優勝校

野球	Aパート	山梨南
	Bパート	塩山
サッカー		塩山
バスケットボール	男子	笛川
	女子	山梨南
バレーボール	男子	山梨南
	女子	山梨南
ソフトテニス(団体)	男子	松里
	女子	山梨南
卓球(団体)	男子	塩山
	女子	塩山
剣道(団体)	男子	塩山北
	女子	塩山
柔道(団体)	男子	塩山
ハンドボール	男子	山梨南
	女子	山梨南
ソフトボール		塩山
バドミントン(個人)	男子	勝沼
	女子	勝沼



笛吹地区 優勝校

野球		春日居
サッカー		一宮
バスケットボール	男子	浅川
	女子	浅川
バレーボール	男子	御坂
	女子	一宮
ソフトテニス(団体)	男子	石和
	女子	一宮
卓球(団体)	男子	春日居
	女子	春日居
剣道(団体)	男子	春日居
	女子	石和
柔道(団体)	男子	御坂
弓道(団体)	男子	石和A
	女子	石和C
体操(個人)	女子	石和

中学校英語暗唱大会

峡東地域中学校

東山梨地区は10月16日(火)に夢わーくにおいて、笛吹市は10月25日(木)に笛吹市教育会館において中学校英語暗唱大会が開催されました。各中学校から2年生、3年生の代表が日頃の練習の成果を披露しました。皆、自分なりの表現を加えながら堂々と、流暢な英語で語りかけ、聴衆を驚かせていました。なお、各学年の優勝者は地区代表として11月13日(火)の県大会に出場します。



☆各学年の優勝者	東山梨地区	笛吹地区
3年生	富山 穂美さん(勝沼)	市川 紫さん(浅川)
2年生	鄭 雨昕さん(山梨南)	古屋 杏玲さん(御坂)



地域住民とフードドライブを実施

ろう学校

ろう学校PTAは、大野地区の住民の方々と協力して、初のフードドライブを実施しました。夏休み中に県内の貧困家庭に食料を贈るため、地域住民や生徒、保護者、教職員からインスタント食品、レトルト食品、缶詰、菓子、調味料、塩、米、ジャガイモ等が約90Kg寄せられました。これらの食品は、生徒によって仕分けされ、7月24日に須田美恵PTA会長をはじめ、相沢季里校長によって南アルプス市にあるNPO法人フードバンク山梨に届けられました。地域と連携して取り組んだことによって、地域との協働性が一層深まりました。また、児童生徒にとって助け合いやボランティア精神を育むことができました。



勸学院生、高校生にパソコンを学ぶ

山梨ことぶき勸学院・塩山高校

7月31日(火)、塩山高校では、ことぶき勸学院峡東教室(2年生)のパソコン講座が開講されました。勸学院生は初級クラスと中級クラスの2つのグループに分かれ、講師は塩山高校の先生方4名と生徒18名が務めました。初級クラスはパソコンの基本操作から始まり、暑中見舞いを作成し、中級クラスは写真や地図を使ってパンフレットを作成しました。初級クラスでは、高校生がマンツーマンで、中級クラスでは2~3人の勸学院生に高校生1人がサポートに入っていました。孫ほども歳の離れた若い先生方の温かい丁寧な指導を受け、勸学院生は、ついつい顔もほころび、しばし若かりし学生時代に戻ったようでした。



豪州と英国と

山梨高校・日川高校・日川小学校



10月12日(金)~16日(火)にかけてオーストラリアの高校生が山梨高校の生徒の家にホームステイしました。15日には山梨高校で授業やクラブ活動に参加しました。ホストを務めた生徒は英語でコミュニケーションをとり、これからの交流を続けたいと感じたようです。訪問団が山梨を発つ時は、日豪の高校生ともに涙を流し、別れを惜しみました。一方、10月17日(水)、日川高校の生徒はホームステイしながら同校で語学研修をしている英国KLB校の生徒と日川小学校を訪問し、6年生と交流しました。日川高校の生徒がホスト役となって交流会の進行をすすめ、カードゲームやメッセージの交換を行いました。交流会の前半はお互いに緊張している様子でしたが、後半になると笑顔が見られ、英語で雑談を交わす風景も見られました。

台湾ブドウ輸出販売実習

笛吹高校果樹園芸科

果樹園芸科3年生7名は9月9日(日)から12日(水)まで、4日間の台湾研修を終え帰国しました。販売実習は10日台北市のCitysuper 復興館(SOGO)地下3階の生鮮食料品売り場の一角で、丹精込めて栽培したシャインマスカットの販売および笛吹市や学校のPRを行いました。1房約4000円の値札(150\$/100g)に驚きましたが、JAをとおして輸出した100kgのブドウを完売しようと、限られた時間の中で事前に習った中国語を活かし多くのお客様と積極的にコミュニケーションをとり充実した実習となりました。また、試食のアンケート結果では多くのお客様が「とても甘くて美味しい」「買ってみたい」と好評価をいただき達成感をえました。



EZ area times



今年度、塩山高校では、運動部・文化部ともに県大会で上位の成績を残しました。生徒たちは、切磋琢磨しながら日々頑張っています！



ウエイトリフティング部

英数コース3年の村田優希君が、3月の全国選抜優勝に続き、8月の全国総体にも優勝し、全国二冠となりました。こうした活躍により、甲州市民栄誉賞を授与されることになりました。

書道部
7月7日、甲州青年会議所主催「伝S HOWフェスティバル」で「稽古照今」の文字を書道のパフォーマンスで書き上げました。



弓道部

男子団体が関東大会に出場し、射の美しさを競う技能採点で6位になりました。女子は個人が全国総体に出場。男子は3年連続で、国体選手を輩出しています。



吹奏楽部

地域行事や甲州市内、県内各所において演奏活動をしています。昨年度 吹奏楽コンクール金賞

商業科 商業科では、課題研究の授業で地元の特産品を使った商品を作り、出店しています。甲州特産の天空かぼちゃをPRするため、天空かぼちゃ祭りに参加し企画・運営に携わるだけでなく、お祭りでは地元企業とで商品開発をし、お祭りで販売をしました。



英数コース 英数コース3年生は、総合的な学習の時間に取り組んだ「地域活性化プロジェクト2018」で、甲州ワインでの乾杯を促進するためのポスターを作って市内の商店に配布したり、認知症について調べ、オレンジカフェへの参加を校内の生徒に呼びかけたり、塩の山ウォーキングマップを作成するなど、11月7日に甲州市役所で報告会を行いました。



女子ソフトボール部

強化指定校でもある女子ソフトボール部は、今年、関東大会に出場しました。



お弁当の日

生徒・職員それぞれが、簡単なものでよいので、自分でお弁当を作り、昼休みに一緒に食べています。このお弁当の日は、年に数回実施されていて、「食」について考える良い機会となっています。

